

仮題：李承晩(イ・スンマン)政権 の反共政策と国民保導連盟事件

- **研究目的**

**李承晩政権の反共主義政策と国民保導連盟
事件との因果関係を具体的に究明することをこ
の論文の目的とする。**

国民保導連盟

- 定義: 1949年6月、左翼転向者を保護、指導ために組織された政府団体
- 設立目的: 左翼活動の経歴がいる者を効果的な統制、当時の左翼勢力を崩壊させ、反共体制を強化すること(加入者数は30万人超)。

国民保導連盟事件の概要

- 朝鮮戦争勃発した1950年6月末から9月の間に韓国の各地域で国民保導連盟員10万人以上が(推定)軍・警察や右翼青年団によって虐殺。
- 虐殺理由: 予防虐殺の概念(内部の敵でありながら外部の敵と内通することができる'赤'という理由)

国民保導連盟事件に対する認識

- 事件自体を知らない人多数存在

被害者遺族に対する抑圧(社会的差別)

軍事政権による資料廃棄

- 1980年代後半の民主化以後、学問的研究可能

政府の公式調査機関

- 真実和解過去史整理委員会
2005年12月から2010年5月まで調査活動
- 公式的に確認された死亡者数:4939人

問題意識

- 赤(アカ)？
- 赤(アカ)は殺してもいいという考え方はどこから来たのか？

赤の否定的なイメージ

- 植民地時代の赤
- 植民地支配直後(信託統治)
- 米国の対韓政策(1945-1948)

李承晩の反共主義の認識

- 統治の道具としての反共主義

◆ 国家保安法

国家保安法違反者は思想犯あるいは反国家的で非道徳的な犯罪者という意味が形成。

参考文献

- ブルース・カミングス『韓国戦争の起源』キムジャドン「訳」、(日月書角、1986年)
- 徐仲錫(ソジュンソク)『曹奉岩(チョボンアム)と1950年代(下) —被害大衆と虐殺の政治学』(歴史批評社、1999年)
- 金東椿(キムドンチュン)『戦争と社会』(トルペゲ、2000年)
- 朴明林(パク・ミョンリム)『韓国1950戦争と平和』(ナナム、2002年)
- 李在承(イジェスン)『国家犯罪』(エルピ、2010年)